

出題分析			
試験時間	60分	配点	50点
		大問数	6題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問 6 題・小問数 42 問と、小問数は昨年度と同数であったが、大問数が 1 題増加した。時代範囲は、古代～近現代から満遍なく出題された。出題内容は、例年以上に史料の引用が多く、ほとんどの大問で読み取り問題が出題された。出題形式は、Ⅱで史料の読み取りを踏まえた 60 字の論述問題が出題された。一方、教育学部に特有であった「該当するものをすべて選ぶ」問題は出題されず、3 文正誤問題は昨年度と同様に 1 問であった。</p> <p>「すべて選ぶ」問題は出題されなかったものの、読み取りを要する史料の出題が増加したことや、史料を踏まえて解答する論述問題が出題されたことで、難化した昨年度と同程度の難易度であったと言えるだろう。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	古代の権力	古代の政治・外交・文化を中心とした出題。問 4. I・II・IVは同じ 645 年の出来事であるため、年号だけでなく当時の流れを理解しておく必要があった。問 6. アとエで迷うか。重要な儀式が行われたのはアの大極殿である。エの朝堂は主に官人の政務が行われた。	標準
II	藤原宗忠が記した日記『中右記』	古代の政治・文化を中心とした出題。設問のほとんどがかなり細かい知識を問うものと、史料の読み取りを要したため受験生は解答に苦労しただろう。問 2. 僧兵の特徴として教科書には袈裟頭巾が示されているが、難。問 4. ア・エ・オはいずれも細かく、判断が難しい。問 7. エの押領使・追捕使は令外官であることを想起する。問 8. 空欄の前に「天台」とあることからエを選ばないように。史料は延暦寺と興福寺の僧兵についての内容。興福寺が法相宗とわからなくとも消去法で導きたい。問 10. 史料から白河上皇が法にとらわれずに政治を行い、検非違使の動員に介入していたことを読み取る必要があった。	難

III	江戸時代の村と百姓	江戸時代の政治・外交・社会・文化を中心とした出題。会話文と史料をもとにした設問が多いが、一部は判断に迷う。問1. 空欄Aの2つ目の後文をヒントに解答したい。問4. 難。イはバテレン追放令で述べられていることだが、ウと迷うだろう。問5. 難。イの縁切寺とオの三行半については、語句、内容ともに細かい。問10. YはIIとIIIで迷うが、会話文後半の「病気やけがなど…」という部分も参考に解答したい。	やや難
IV	19世紀における宗教・民俗	近代の政治・文化を中心とした出題。問2. 史料2は神仏分離令、史料3は「慶応3年」をヒントに幕末の内容だとわかる。一方で、史料4の時期の判断は難しいが、「政教の異なる」などから神道国教化政策を受けての内容と推測したい。	標準
V	「スペイン風邪」を報じた新聞記事	近代の政治・経済・文化を中心とした出題。問3. エの『蝶々夫人』で有名なのは三浦環。オは新派劇ではなく新劇。違いに注意しよう。	標準
VI	高度経済成長	近現代の政治・経済・社会を中心とした出題。問1. 漢字で記すことをヒントに解答可能か。最初の患者は熊本で報告された。問4. イの連合は1989年の結成。問7. オの成長率5%前後の安定成長期に入ったのは1970年代後半のこと。日本は1974年に戦後初のマイナス成長となるが、翌75年にはプラスに転じている。	標準

合格のための学習法

早稲田大学教育学部の日本史は例年、史料問題が多いことに加え、今年度は出題されなかったものの、正誤判定問題に「該当するものをすべて選べ」との設問条件も見られ、難度の高い問題が出される。また、今年度は60字の論述問題も出題され、例年以上に時間配分に注意が必要であった。他方で、教科書で充分に対応することができる標準的なレベルの問題もあるので、基本に忠実な学習を心掛けたい。細かい知識が問われる問題に対しては、出題傾向に慣れるために過去問を解く時間をしっかりと設けたい。その上で、過去問で出会った歴史語句は用語集の説明で確認しておく、更なる得点アップにつながるだろう。